



青春の火は燃ゆ

# 日本マスターズ陸上 第20期の新役員決まる (2018-19年)

水無月から文月へ。いよいよ本格的な夏の到来だ。競技会や練習のときには脱水状態に注意しよう。しっかり給水を。6月9日、東京都内で公益社団法人日本マスターズ陸上競技連合の第25回通常総会が開かれ、第20期の新人事が決まった。マスターズ陸上はあらゆる生涯スポーツの先駆けとして活動してきたが、組織のリーダーたちの顔ぶれは――。今月は“新しい顔”に決まった役員の特集。

## 会長は鴻池清司氏が継続 専務理事は佐野昭二氏が再選

公益社団法人になって3期目の日本マスターズ陸上競技連合の会長は鴻池清司氏（和歌山）に決まり、2007年半ば以来、引き続き重責を果たす。専務理事は引き続き佐野昭二氏（愛知）が、要役に当たる。

理事20人のうち、新任が9人と半数近くが入り替わった。新しい風が組織の活性化につながれば幸いだ。新しい顔ぶれのなかには副会長に就任した元ハンマー投日本記録保持者の室伏重信氏（東京）ほか、元マラソン日本記録保持者の増田明美氏（東京）と住友電工陸上競技部元監督の松本俊裕氏（兵庫）らが組織の仲間入りをした。

第20期（2018～19年）の新役員は表のとおり。

## 室伏重信さん、 増田明美さんらが加入

第20期の人事で得難い人材がそろったなかで、陸上界で知名度が高い室伏重信さん（72歳）、増田明美さん（54歳）、松本俊裕さん（69歳）が仲間入りした。従来、室伏さんと増田さんは名誉会員だった。

今回からは外部協力ではなく、組織の一員としてのリーダーぶりが期待される。もう説明の必要はないが副会長

に就いた室伏さんは、元ハンマー投で75m96（1984年）の日本記録を持ち、その後、84m86（2003年）まで記録を伸ばしたのが長男・広治氏だ。

“父子鷹”で五輪出場を果たし、広治氏は2004年アテネ五輪で82m91を投げ金メダルにつなげた。長女の由佳氏も兄・広治氏とアテネ五輪に出場。女子円盤投58m62（2007年）、ハンマー投67m77（2004年）の日本記録を保持している。

増田さんはマラソン解説はじめ、テレビなどを通じて、すっかり茶の間の人気者になっている。現役時代は成田高（千葉）時代から一線級に躍り出し、中・長距離で絶対の強さを誇った。

五輪実施種目の5000m15分38秒29（1982年）、10000m32分48秒1（同）、マラソン2時間30分30秒（1983年）のほか、3000m9分11秒95（同）、10km33分48秒（1982年）、20km1

時間06分55秒（同）、30km1時間46分17秒（1983年）は日本記録だった。

これだけのレコードを出すだけの努力を積んだ蓄積が、軽妙な話術に生きているのだろう。

室伏さんも増田さんも今までマスターズ陸上に熱い声援を送ってくれていた。特に増田さんはほぼ同じ時期に、日本パラ陸上競技連盟の新会長に就任した。超多忙の身となるが、マスターズ陸上へ協力する。

松本さんは若い頃から実業団の選手として活動した後、連盟役員として内助の功を果たしてきた。勤務先の住友電工（大阪本社・兵庫陸協所属）の陸上競技部監督を長年務め、2015年には総監督として全日本実業団対抗で男女総合優勝を果たした。マスターズ陸上への参画は初めてだが、広報委員長として新しい動きを見せてくれるか。



新役員が承認された第25回通常総会后（写真提供/日本マスターズ陸上競技連合）

〔第20期役員〕

(2018～19年、◎は新、敬称略)

▽会長	
鴻池 清司	(和歌山)
▽副会長	
尾崎 宏	(東京)
室伏 重信	(東京)◎
木村清衣衛	(近畿・滋賀)
▽専務理事	
佐野 昭二	(東海・愛知)
▽常務理事	
黒木 通哲	(九州・宮崎)
岡田 剛	(東北・北海道)◎
岡 桂子	(和歌山)
中嶋 誠次	(関東・神奈川)
松本 俊裕	(兵庫)◎
▽理事	
寺島 美則	(東京)◎
岡田 節男	(関東・群馬)
伊藤 誠一	(北陸・福井)◎
山田栄一郎	(東海・長野)◎
熊木 利隆	(近畿・大阪)
皆木しげる	(中国・岡山)
海面 豊	(四国・香川)◎
山田 清美	(九州・佐賀)
増田 明美	(東京)◎
坂本 修一	(神奈川)◎
▽監事	
田上 静之	(神奈川)◎
斎藤 忠彦	(山口)◎
今井 守雄	(新潟)

〔専門委員会〕

▽総務委員会	
担当副会長	木村清衣衛
委員長	黒木 通哲
副委員長	皆木しげる
(総務部長)	熊木 利隆
▽財務委員会	
担当副会長	尾崎 宏
委員長	岡田 剛
副委員長	寺島 美則
財務部長	岡 桂子
▽競技運営委員会	
担当副会長	木村清衣衛
委員長	中嶋 誠次
副委員長	岡田 節男
(技術審判部長)	伊藤 誠一
委員	石田 秀雄
▽普及広報委員会	
担当副会長	室伏 重信
委員長	松本 俊裕
副委員長	増田 明美
(事業部長)	山田 清美
(広報部長)	山田栄一郎
(普及部長)	海面 豊
▽国際・科学委員会	
担当副会長	室伏 重信
委員会委員長	坂本 修一
(国際部長)	内田 眞一(事務局)
(科学部長)	日本陸連理事委員会に紹介者を依頼

〔名誉役員〕

(2018～20年、◎は新、敬称略)

▽名誉副会長	
渡邊源太郎	(大阪)
大串 啓二	(神奈川)
生田 秀正	(鳥取)
織田 和雄	(東京)
河村 建夫	(山口)
山田 展也	(岐阜)◎
▽名誉顧問	
川瀬 重道	(三重)
南部 久子	(大阪)
▽名誉会員	
君原 健二	(福岡)・元五輪マラソン代表
▽顧問	
國松 善次	(滋賀)
天野喜代子	(東京)
大橋 一男	(大阪)
力武 敏昌	(兵庫)
田中 克之	(東京)◎
井口 輝男	(東京)◎
▽参与	
田中 重治	(山梨)
竹田 賢治	(富山)
松田 良男	(滋賀)
山本 敦	(石川)
桜井 久一	(石川)
畑山 栄造	(和歌山)
八重輝輝男	(岩手)◎
石田 秀雄	(石川)◎
▽マスターズ大使	
為末 大	(東京)・元五輪400mH代表
室伏 由佳	(東京)・元五輪女子ハンマー投代表
宮崎 秀吉	(京都)・100歳以上スプリンター、2018年9月22日で108歳
深尾 真美	(大阪)・中学時代からマスターズまで国内中長距離一線級で活躍

鴻池会長の言葉

「マスターズピック」の早期実現と、健康寿命の延伸に向け邁進

第19期(2016～17年)の役員改選で再び会長に選ばれた年は、リオ五輪の年でした。それから2年、今回は2年後に2020年東京五輪・パラリンピックが開かれ、さらにその1年後の2021年には広く関西圏内で「誰もが気軽に参加できる」ワールドマスターズゲームズが行われます。

これらのビッグゲームを盛り上げるために、日本マスターズの役割は……。連合は1992年から日本陸連の協力団体になっており、東京五輪に代表選手を送り込むことは無理としても、何らかの協力は必要です。ワールドゲームズについては、今から胸をわくわくさせている会員の方も多はず。

さて、企業で働く社員の定年が次第に伸長され、今は「人生100歳時代の到来」の時代になりました。日本マスターズは男女を問わず18歳から入会でき、5歳刻みにレースを楽しみ、100歳超までの方が元気でトラックにフィールドにと活動されています。

昨年、マスターズ陸上発祥の地である和歌山であった全

日本大会でも渡邊源太郎さん(名誉副会長、大阪)、富久正二さん(広島)が参加され、はつらつとした動きを披露され、スタンドの拍手を誘いました。お二人とも100歳でした。皆さんも見習い、楽しみながら「100歳現役アスリート」を目指してください。

私たち役員、関係諸氏は資金が乏しいなか、知恵を出し合い競技運営に当たったり、生涯スポーツ(マスターズ陸上)の普及振興に努めています。

このたびの役員改選で新しい仲間が組織入りしました。そのなかに「アジアの鉄人」といわれた元ハンマー投の名手・室伏重信さんを副会長に、スポーツジャーナリストの増田明美さんと、実業団陸上の組織をよく知る住友電工元監督の松本俊裕さんを理事に迎えました。

こうした人事の協力を結集して本連合が目指す「マスターズピック(五輪)」の早期実現と、健康寿命の延伸に向け邁進(まい)進じてまいります。皆さんのご協力をお願いいたします。